

らNV GIIが検出され、遺伝子型別された事例はすべてGII/4であった。

4. 2006/07シーズンに流行したGII/4について: NVの構造蛋白領域に新たな変異が認められるGII/4(E2006a型、E2006b型)による集団発生が2006年にヨーロッパで多発した(IASR 27: 239, 2006およびIASR 28: 51, 2007 & 28: 51, 2007参照)。全国各地の11地研で収集された検体から検出されたNVの遺伝子解析によって、E2006b型が2006年5月に日本にも存在していたことが確認され、2006/07シーズンに大きな流行を起こしたことが示されている(本号3ページ参照)。

5. 食中毒統計: 厚生労働省がまとめている食中毒統計においても2006/07シーズンのNV食中毒事件数は過去4シーズン平均の1.7倍、患者数は2.7倍に増加していたが、原因食品として従来注目されていた貝類による事例は少なく、食品取り扱い者により二次汚染された食品を原因とする事例が増加したと推定されている(本号6ページ参照)。

6. まとめ: NVによる食中毒および感染症の発生を防止するためには、感染性胃腸炎の患者発生動向、NV検出情報に注意し、常日頃から健康観察、手洗いなどを励行することが重要である。無症状の調理従事者による食品の二次汚染が原因となった食中毒もみられることから(本号9ページ参照)、食品取扱施設での基本的な衛生管理の徹底が望まれる。また、不適切な吐物の処理のために多数の人がNVに曝露したと考えられる人→人感染集団発生事例が多発しているので、糞便のみならず吐物の処理に特に注意が必要である。厚生労働省は2007年10月12日に「ノロウイルス食中毒対策について」を公表した(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/10/s1012-5.html>)。IDSCでは最新情報を随時掲載している(<http://idsc.nih.gov/disease/norovirus/index.html>)。



↑ 今月の表紙へ戻る

■ IASRのホームページに戻る

■ [Return to the IASR HomePage\(English\)](#)

IASR *Infectious Agents Surveillance Report*

◀ HOME IDSC

ホームへ戻る